

むくのきだより



2月号 平成28年2月1日 港区立赤羽幼稚園長 小鹿原 賢

幼稚園のオリンピック・パラリンピック教育

園長 小鹿原 賢

1月は、「お囃子会」「餅つき会」と、新年の幕開けと子どもたちの幸福を祈る園行事が行われました。このような日本の伝統文化に触れる行事は、地域の方(お囃子会の皆様)や保護者の方々のご協力の下に成り立ちます。太鼓をうつ・お餅をつく体験や小学生のお囃子の演奏交流もできて、子どもたちは大喜びでした。つきたての柔らかいお餅を嬉しそうに食べる子どもの姿を見て、私も嬉しくなりました。私は、試食と称して、たくさんお餅をいただきました。

1月中旬過ぎから、大変寒くなり、東京にも雪が降りました。幼稚園・小学校の先生や主事さんは、朝早く園や学校に来て、雪かきをしました。お陰で、雪で滑ることもなく登園・降園できました。寒さはまだ続きます。健康に気を付け生活させてください。

幼稚園・学校は、4年後の2020年に向けてオリンピック・パラリンピック教育を行います。これは、子どもたちに意図して運動やスポーツを課し、特別な体力を身に付けさせることではありません。

この教育は、異文化に触れたり、遊びや運動を仲良く協力したりして、オリンピック・パラリンピックへ興味や関心をもたせるのです。また、アスリートから一流の技を見せてもらったりかかわったりすることで、「あこがれ」をもたせるのです。何よりも体を動かすことが好きな子どもに育てることです。また、世界には大勢の人々が生活していることに気づいたり、かかわったりすることが楽しいという体験をすることです。

先日、三田アカデミー(三田中学校・御田小学校・芝小学校・赤羽小学校・赤羽幼稚園)の幼・小中一貫教育において、赤羽幼稚園が公開保育をしました。その際、港区教育委員会から、この三田アカデミーの子どもたちは、体力向上が課題だと指摘がありました。幼稚園としては、子どもたちの体力や運動能力の実態から目標値を定め、発達段階に即した遊びや動きづくりをしていきます。そのためには、園内研究の成果やオリンピック・パラリンピック教育を生かしていこうと思います。

2月は、子どもたちが楽しみにしている「生活発表会」や「お別れ遠足」等があります。子どもたちと一緒に楽しみ、思い出に残る行事にしていきたいと思います。

